



「あなたの神、**主**の安息日を聖別せよ」
申命記 5・11~15 (要旨) 説教者 原田憲夫

今朝、「私たちの神、**主**」が「私たち一人ひとり」に求める御心を尋ね、みことばに耳を傾けましょう。

【1】神、主の聖なる御名-敬虔に！ (11)

「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。」

(1) あなたの神、**主**の名を・・・

▶「名は体を表す」・・・聖書が「神の御名」と語るときは、<神ご自身>です。即ち、神のご性質、神のご臨在-現在性を現します。

「主の名」を口にするには、永遠の神のご臨在に触れることなのです。→詩篇 135・13

(2) みだりに口にしてはならない

神の名を不敬虔に「口にするな」との戒めです。

→キリストの警告 (マタイ 7・22,23)

▷表面的な現象や他人のうわさ話を追いかける過ちに陥ると、ついには主に対する信頼、信仰が崩れていくことを忘れてはなりません！

むしろ、詩篇に倣い、真実の神、主の聖なる御名を祈りと賛美の中で大切に用いることです！

→詩篇 105 篇 1~4 節

【2】主の安息日を聖別しよう！ (12~15)

「安息日を守って、これを聖なるものとせよ。」

この勧めには「創造」と「救い」という二つの偉大なみわざへの視点があります。

(1) 神による「創造」と「救い」の「みわざ」を覚える (忘れない) こと

(a) 「出エジプト記」；神の天地万物の「創造のみわざ」に続き、七日目に休まれたことに関連づけて「安息日を守って、聖なるものとせよ」と命じられます(出 20・11)。

(b) 「申命記」；出エジプトの出来事、すなわち奴隷の苦役からの解放という「救いのみわざ」を忘れず、「安息日を守れ」と命じられます(申 5・15)。

(2) 主イエス・キリストによる「救いのみわざ」と「創造のみわざ」を覚える (忘れない) こと

▶新約時代以降の私たち-キリスト教会は、この「安息日」を「週の初めの日(日曜日)」に守っています。根本は同じですが順序が入れ替わります。

(a) 「使徒の働き」；キリストの十字架と復活という「救いのみわざ」に基づいて「週の初めの日(日曜日)」を聖別します(使 20・7)。

(b) 「ヨハネの黙示録」；キリストの再臨に現されるみわざ、新しい天と新しい地の「創造のみわざ」に備えて「週の初めの日」を「主の日-主日」として聖別します(黙 1・8,10)。

【招き】

キリストの招き (マタイ 11・28) ；休むことが不可欠な「霊/心とからだ」をもつ私たち…。

▶「主の日」が「安息日」と呼ばれる真の意味はここにあります。

(教会に行くとき疲れる？何かを勘違いしていませんか？)

「主の日」は家族や隣人とともに過ごし、主を喜び、恵みを分かち合う「安息日」、「聖なる祝日」なのです。

▷今日、ますます予想しがたい試練が待ち受ける中にあるからこそ、「主の日-安息日」を聖別し、主の御前に出ることが大事になります。

そしてその度に、新たにキリストにある救いをいただいた喜びと、永遠の安息を待ち望むのです！

さあ、いよいよ主の安息日を聖別し、聖なる御名を賛美し、主のみわざ、主のみことばを感謝し、互いに励まし合い、ともに祈り合いつつ歩もうではありませんか！

*祈り

*賛美